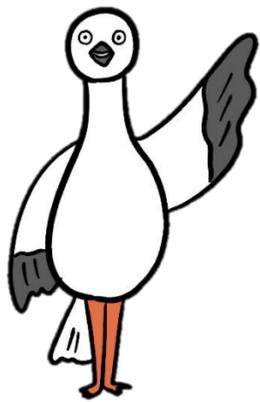


2026年2月20日

# すべての市民のウェルビーイングの実現を ～ 田園環境都市おやまビジョンがめざすまちづくり～



小山市長 浅野 正富



## 3年3か月をかけて策定したビジョン

小山市では、2025年3月、市制施行100周年となる30年後の2054年の小山市のあるべき姿を描いた、すべての市民のウェルビーイングの実現をめざす「田園環境都市おやまビジョン」を市民との共創により完成させました。

200頁を超えるビジョンの内容のすべてをご紹介することはできませんが、このビジョンによって小山市がどのようなまちづくりを行おうとしているのか、その概要をご紹介します。



# 田園環境都市おやまのまちづくり

2020年に小山市長に就任した私は、市政の基本方針の一つに「田園環境都市おやま」のまちづくりを掲げましたが、田園環境と都市環境のバランスの良さを将来も維持するまちづくりを進めることについて、多くの市民から好意的に評価されました。その背景には、小山市南部に位置する4市2町にまたがる日本最大の遊水地「渡良瀬遊水地」が2012年ラムサール条約湿地に登録され、2020年からコウノトリが繁殖して、小山市民の中には自分たちのまちには都市的要素だけではない、国内外に誇れる素晴らしい自然環境があることにシビックプライドを感じる方が多かったという事情があります。

そして、さらに市民の意識を分析してみると、市民は単に物理的な環境だけを評価していたのではなく、バランスの良い環境によってもたらされる精神的な潤いや健康、環境によって培われてきた文化伝統というものまで含めて生活の豊かさを感じていることが明らかになりました。



## なぜビジョン策定が必要とされたのか

私が市長就任前の小山市の行政は従来から5年毎に策定される総合計画の下で進められてきました。形式的に総合計画の上位に長期ビジョンがあるものの、現在行われている施策を重要視するあまり、将来どのようなまちになるのかその将来像が市民と行政の間で明確に共有できず、結果的に行く先が定まらないフォアキャストिंगのまちづくりになってしまっていました。

市長就任後、「田園環境都市おやま」のまちづくりを進めようとしたときに最大の問題は二極化現象でした。小山市では都市部の人口が増え続けるのに田園部では急速な人口減少・高齢化が進む二極化が進行しているため、フォアキャストिंगのまちづくりのままでは田園環境と都市環境のバランスの良さを維持していくことは極めて難しかったのです。

市民と行政が小山市の抱える課題と将来像について明確な共通認識を持ったバックキャストिंगでのまちづくりへの転換の必要性に迫られ、30年後の小山市のあるべき姿を描く「田園環境都市おやまビジョン」を策定することになりました。

## 策定に3年以上の時間を要したのは

小山市域には明治22年の町村制施行当時旧小山町をはじめ10町村が存在していましたが、昭和29年の市制施行を経て昭和40年までの間に合併が進み現在の小山市となりました。

その10地区すべてについて、有限責任事業組合風景社の協力を得てビジョンの基礎資料となる簡易社会調査を含む風土性調査を行なうこととしました。

南北に長い大谷地区については2地区に分けて調査を行い計11地区になりましたが、その11地区すべてで行った風土性調査の結果を基に地区別ビジョンを策定したため、3年以上の時間を要したのです。



## なぜ地区別ビジョンを策定したのか

人は身体性を持った存在ですから、一人一人の生活空間が各人の認識の基本となります。同じ小山市民であっても、その人が生活する環境によって小山市に関する認識は全く異なり、市民にとってまちづくりを自分ごとにするためには、一人一人の生活空間にできるだけ近い範囲をまちづくりの最小単位にすることが必要であり、それが地区別ビジョンになります。

普段自分が生活している地区を特に意識していないという市民も、その人が主に生活している空間によって小山市に関する認識が形成されており、逆に自身の小山市に関する認識が生活空間や生活する地区の影響を受けていることを意識化して、まず自分の生活する地区の将来から考え、その地区の将来と市全体の将来を関連付けていくことで、生活する自分自身と地区そして市全体が繋がり、市全体のまちづくりを自分ごとにするのが可能になります。

## 自分たちの周囲を改めて知り、学ぶための風土性調査

私たちは自分が生活している地区のことをよく知っているつもりで生活していますが、実際は知らないことだらけです。ですから、まちづくりのためには、自身が暮らしている地区をはじめまち全体の実像を知ることから始めなければなりません。

自分の居住する地区から市全域まで、よく知り、学ぶために、本ビジョンの策定の最も基礎となる作業として、文献調査と現地調査（踏査調査）によりその地区の成り立ち、風土、自然、文化、伝統、人々の生業を改めて学ぶための風土性調査を行い、さらに、その地区に住む住民がどのような意識で暮らしているのか、アンケートや聞き取りによる簡易社会調査を合わせて行いました。

なお策定過程の中では、簡易社会調査も含めて一括りで風土性調査と呼んで調査を行ってきましたが、11地区すべての風土性調査の報告書を合わせると1400頁を超えるものとなりました。小山市の実像をかなりの程度正確に捉えることができたと思いますし、策定作業の中でその成果を市民と共有してきました。

# 小山市風土性調査～4つの調査手法での観点と、それらの連関図

## 現地調査（踏査）

土地利用と地形の関係   平地林や池、川などの様子と生き物   集落内外の道のつながり  
建物、庭、農地の作り   農地の様子や農作業の工夫   人々が集まる場所の位置と造り  
寺や神社の分布と状況   史跡や碑   昔ながらの災害への備え   都市部の熱環境(日差しと熱)

## 文献調査

小山市史や郷土史、論文など昔・今の様々な地図

## アンケート調査

生活圏   地域資源への認知度・関心度  
大切に守り未来へつなぎたいもの  
次世代に残さず、解消したい困りごと  
暮らしの価値観   望ましい都市環境の在り方

## 聞き取り調査

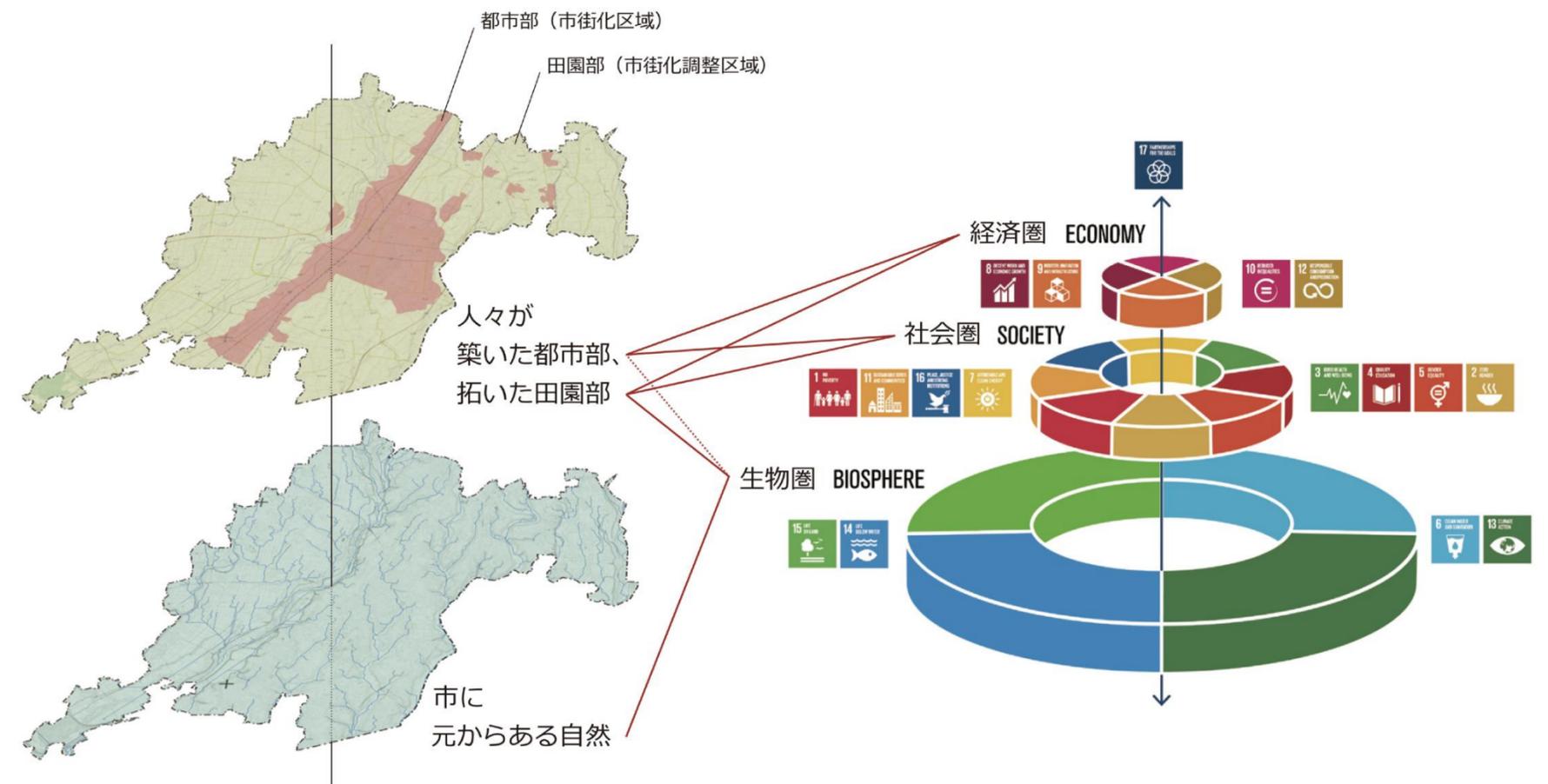
(グループインタビュー・個別聞き取り)

地区の昔と今の変化   開発や土地利用の様子  
コミュニティや共助の様子   催事や祭りなどの状況  
農業   生活環境   こどもたちを取り巻く環境  
変えていきたいこと   未来に残したい地区の良さ

# 風土性調査の中で明らかにした生態系サービス

各地区の風土性調査によって各地区の歴史、文化、伝統等を明らかにしましたが、各地区の自然生態系が私たちの生活にどのようなサービスを提供しているかについてもできる限り明らかにしました。また、SDGsのウェディングケーキモデルに即して、小山市の社会、経済にかかる土地利用がもとの地形や自然生態系とどのような関係性を有しているかを明らかとすることで、今後の土地利用や環境改善のあり方を見直すことが可能になりました。

市の田園部、都市部と SDGs ウェディングケーキモデルの自然、社会、経済の関係を照らし合わせる



出典：国土地理院「地理院地図」<https://maps.gsi.go.jp> (市改変 令和6(2024)年)

## 市の田園部と都市部における自然の恵み（生態系サービス）

自然の恵み（生態系サービス）			田園部における状況（概要）	都市部における状況（同左）
供給サービス	1	食料	○（穀物、野菜）	△（野菜）
	2	水	○（河川水、地下水）	○（河川水、地下水）
	3	原材料	○（木材、燃料、飼料、肥料）	△（木材、燃料、肥料）
	4	遺伝資源	○（農地、樹林、河川、湿地）	△（樹林、河川、湿地）
	5	薬用資源	○（各所に薬用植物が生育）	△（一部に薬用植物が生育）
	6	観賞資源	○（工芸品、観賞植物）	△（樹林）
調整サービス	7	大気質調整	○（農地、樹林、河川、湿地）	△（樹林、河川）
	8	気候調整	○（ " ）	△（ " 、農地、公園）
	9	局所災害の緩和	○（渡良瀬遊水地、水田、樹林など）	△（樹林）
	10	水量調整	○（農地、樹林での水源かん養）	△（樹林）
	11	水質浄化	○（水田、湿地での脱窒など）	△（樹林）
	12	土壌侵食の抑制	○（地面を覆う植生による）	△（樹林）
	13	地力の維持	○（主に樹林による）	△（樹林）
	14	花粉媒介	○（訪花昆虫による）	△（訪花昆虫は皆無ではない）
	15	生物学的コントロール	○（天敵による害虫管理など）	△（樹林、河川）
	生息・生育地サービス	16	生息・生育環境の提供	○（農地、樹林、河川、湿地）
17		遺伝的多様性の保全	○（ " ）	△（樹林）
文化的サービス	18	自然景観の保全	○（田園景観と山地への眺望）	△（西縁に台地斜面林）
	19	休息や観光の場と機会	○（生物の観察・採取、行楽）	△（公園、歩行者専用道路）
	20	文化、創造活動への触発	○（創作の主題提供など）	△（創作の主題提供など）
	21	信仰、精神的影響	○（寺社装飾、祭礼の材料）	○（寺社装飾、祭礼の材料）
	22	科学や教育に関する知識	○（環境・生涯学習、研究）	△（農地、樹林、河川、湿地）

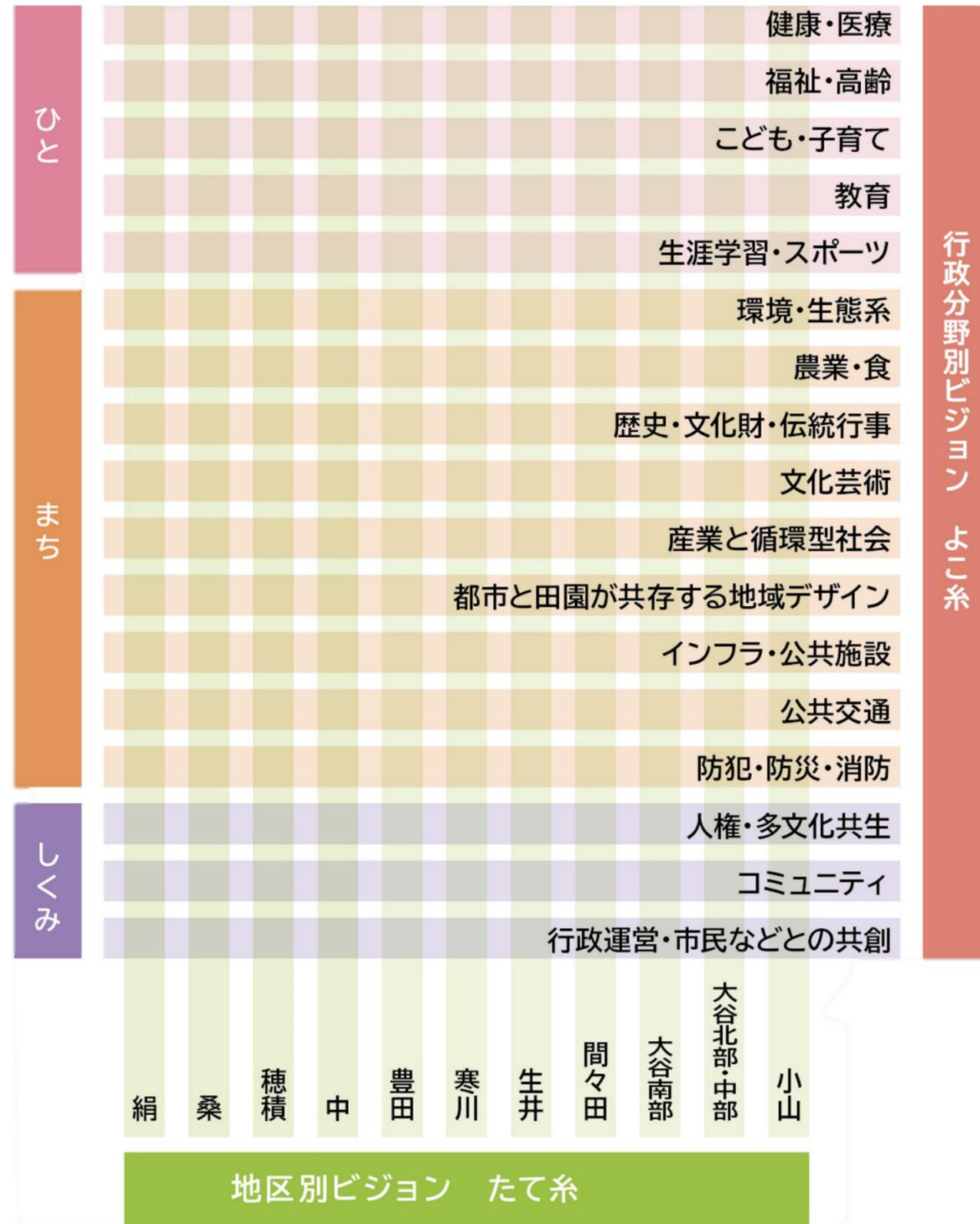
※○は自然の恵みを十分に受けている状況、△は自然の恵みのある程度受けているか受けられる可能性があることを示す。

## 風土性調査で明らかになった市民の意識

地区ごとのアンケートや聞き取りによって、小山市特有の市民の意識も浮き彫りになりました。人口減少が進む田園部で農業について収入の少なさや不安定さ、後継者不足などが解消したい困りごとに挙げられるのは当然ですが、都市部において小山市の農業に関心がありその将来を心配している非農家の市民が多いことや、平地林を伐採して開発された分譲地に移住されてきた方の中に都市部に残る平地林等の自然環境を守ってほしいという意見が多いことも分かりました。また車社会が進んだ小山市において、免許返納した高齢者の割合が多い田園部だけでなく都市部でも公共交通の充実を求める声が極めて多いことや、すべての地区で人と人のつながりが希薄化していることへの問題意識の高さも明らかになりました。

以上はほんの一例ですが、ビジョン策定作業の一環として各地区での市民の意識を調べ、その結果を基に市民と行政が一緒になって議論する過程を通して、二極化している小山市において、どのように都市部と田園部のバランスを維持していったらよいのか、またそのこと自体の必要性を行政と市民の間で共有できるようになりました。

# 地区別ビジョンをたて糸に行政分野別ビジョンをよこ糸に



田園環境都市おやまビジョンでは、地区別ビジョンを「たて糸」に、行政分野別ビジョンを「よこ糸」にして全体のビジョンを織り上げ、その市域全体の30年後の姿を「空間」「循環」「生活」という3つの視点からビジュアル化しています。

# 行政分野別ビジョン

地区別ビジョンの検討過程で導き出された地域単独では解決できない課題や、市全体に共通する課題に対するアプローチとして、市民や市内通勤通学者等へ行政分野別アンケートを実施し、その回答結果を「ひと」「まち」「しくみ」の3つの切り口から合計17の行政分野に落とし込み、庁内プロジェクトチームによって分野ごとの調査や検討を行い、現状と課題を整理して30年後の目指すべき姿を描きました。



# 田園環境都市おやま 空間ビジョン

市域の空間ビジョンを、斜め上空から見下ろした図（鳥瞰図）に表しました。今ある緑地と水辺を守り、新たに緑地や水辺を増やして、市民が得られる自然の恵み（生態系サービス）を最大限に受けられるようにします。新たな緑地や水辺は、気候変動の影響による局地的大雨（ゲリラ豪雨）や熱中症などの被害の緩和、解消を目指し、自然を生かしたグリーンインフラとして整えます。また、市域で自然の恵みを得るうえで重要な役割を果たす農業の維持を、道路、公共交通の計画の進行や、田園部の地域拠点の充実によって支えます。

## 田園部にも、農地への樹影の影響に配慮しながら緑陰空間を



各地区の通学路や地域拠点につながる道が、緑陰のある生活道路とされています。穂積地区の間中の板並木がモデルです。

## 環状道路 (外環状線・内環状線)



## 公共交通が充実し、利用者も増える



自宅から自家用車や自転車で最寄りの駐車場へ行き、そこからは公共交通に乗り換えるパーク＆ライドが普及しています。

## 田園部には、風景を楽しみながら心身が健やかになる場を



田園部では、空と大地が広がる中で散歩やサイクリングが楽しめ、木陰で休める空間が設けられるなど、生活環境が豊かに整えられています。

## 地区拠点の一例



田園部では、交流の他に日用品購入の支援、医療・福祉の相談などに関する機能を持つ地域拠点が置かれています。

## 建物の屋上・壁面の緑化は断熱性能向上にも結び付く



気候変動の緩和とヒートアイランド現象の解消を目的に、建物の屋上は緑化されています。菜園を設ける例も見られます。

## 都市部には、緑豊かな屋外の居場所をより多く



都市部では、公共交通の充実とパーク＆ライドの普及により、歩行者中心の道路空間と自転車道路網が整備され、屋外の居場所が増やされています。

## 大雨対策を主に、気候変動やヒートアイランド現象への対策を兼ねて、雨水幹線整備などの他に、台地上の谷を、水を集めて地下に運ぶ区域とする



豪雨時、台地の上では谷の部分に水が集まります。この部分で雨水を貯めて地下に浸透させる、治水と水循環の両立を図ります。

※鳥瞰図は、「生物多様性おやま戦略」で示した将来像の上に、地区別ビジョン、行政分野別ビジョンとして検討してきた内容を整理して描きました。



# 田園環境都市おやま 生活ビジョン

生活ビジョンでは、「個人の生活」と「人と人のつながり」「地域社会」「生活を支える要素」の4つに分けて、それぞれの面からウェルビーイング実現に必要な条件を描きます。私たちの生活は、個人だけで完結せず様々な人々との関わりの中で成り立っています。

生活を支える要素を基盤とし、その上に個人の生活があり、他者とのつながりにより小さな共同体が生まれ、それが集まり地域社会が形成されます。この関係は一方向的ではなく、お互いに影響を与え合うものです。それぞれが豊かなものになれば、市民一人ひとりのウェルビーイングの実現につながります。

ウェルビーイングとは「身体的」「精神的」「社会的」に満たされた状態を意味します。この3つの要素全てが私たちの生活に関わるものですが、ここでは、生活におけるそれぞれの場面で最も結び付きが強いと考えられる要素を色の濃淡で示しています。



精神的な幸福 身体的な幸福 社会的な幸福

## ウェルビーイング



### 人と人のつながり



**住民同士がサポートし合う関係ができています**  
住民同士が互いに助け合う関係が築かれており、育児や介護など困ったときには自然にサポートし合える。



**交流によって孤立を感じることはない**  
知識や技術、情報が共有できる多世代の人の交流があり、常に人と人のつながりを感じる事ができる。



**お互いの個性を受け入れ尊重している**  
お互いの個性を理解し受け入れ、価値観の異なる人が排除されることなく居場所がある。



**共通のことで共に時間を過ごす仲間がいる**  
共通の趣味やスポーツなどを通じて時間を共有できる仲間がいることで、充実した日々を送ることができる。

### 個人の生活



**時間にゆとりがある**  
仕事や義務に追われることなく、趣味や好きなことに使う時間があり、リラックスができる。



**いろいろな働き方を選択できる**  
子育て中あるいは退職後、テレワークなど個人のライフスタイルに合わせた働き方を選択できる。



**好きなことができる環境がある**  
何かを始めたいと思ったとき、それを実現するための場所や手段などが整い、好きなことを趣味や生きがいにする環境がある。



**チャレンジできる環境がある**  
自己成長を促進する支援があり、誰もが目標に向かって努力し能力を発揮できる環境がある。

### 地域社会



**住民に合わせてコミュニティが変容している**  
時代やニーズに合わせてコミュニティの在り方が変容し、誰もが自分の意見を発信しまちづくりに関わることができる。



**住民によってまちの安全が守られる**  
日頃から住民同士の情報が共有され、地域の隅々まで目が行き届くことで、治安や景観、安全などが地域によって維持されている。



**地域資源が継承される**  
地域の歴史や文化などに気軽に触れる機会があり、理解が深まることで、興味を持つ人の輪が広がり、担い手が生まれている。



**地域経済が活性化するアイデアが生まれる**  
多様な人の交流によりまちがにぎわい、事業者や行政を巻き込んだ様々なアイデアが生まれ、地域経済が活性化している。



**能力を生かして地域の課題が解決できる**  
適材適所で能力を生かし、地域の課題を自分たちで考え、地域の中で解決することができる。

### 生活を支える要素

#### 平等な教育を受けられる

経済的、身体的あるいは地理的な要因にとらわれず、全ての人が自由に教育を受ける機会を平等に持つことができる。

#### 身近に自然があふれ癒しを感じられる

田園風景や、公園の緑などこころのゆとりになる自然環境が日常生活の中にあふれ、心身の健康の維持と共に、気候変動や災害対策にもつながっている。

#### 健康に不安を感じることなく過ごせる

困ったときに必要な支援を受けることができ、医療機関が身近に整備され、健康に心配なく生活を送ることができる。

#### 治安が良く安心した暮らしができる

犯罪の誘発要因が少なく防犯に配慮されたまちづくりがなされ、治安が良く安心して暮らすことができる。

#### 災害被害の心配がなく安全な暮らしができる

洪水対策や建物の耐震化などの防災基盤の強化と共に、グリーンインフラの整備による減災対策が施され、有事の際には速やかに避難ができる。

#### 快適な生活を送る仕組みやサービスを受けられる

障がいの有無・年齢・性別・国籍などに問わず、全ての人が過ごしやすい仕組みやサービスが提供され、誰もが不自由なく暮らすことができる。

#### どこに住んでも快適な生活を送れる

公共交通が充実し、良好な交通環境が形成され、買い物や医療機関の受診など身近にサービスが提供される環境も整うことで、移動手段に左右されない生活を送れる。

# すべての市民のウェルビーイングの実現を目指して

本ビジョンは、田園環境と都市環境のバランスの良さを維持していくための「田園環境都市おやま」のまちづくりのためのビジョンですから、当初から環境と持続可能性が重要な要素でした。しかし、市民の中には必ず「自分にとっては食べられるか食べられないかが先決で環境問題に関心を払う余裕はない」と言う方が出てきます。環境、持続可能性を強調して説得しようすれば逆効果になりかねず、市民の間でビジョンを広く共有するためには、環境と持続可能性よりも上位の概念を示すことが求められました。

その時に、小山市で暮らしている市民が小山市の田園環境について、「物理的環境のみを評価しているのではなく、それがもたらす生活の豊かさを評価している」ことを思い起こし、「ウェルビーイング」の理念に辿りついたのです。

策定作業途中の2023年の秋、「すべての市民のより良い暮らし（ウェルビーイング）の実現をめざす」ことを本ビジョンの最上位の目標に掲げました。

私たちは環境や持続可能性のために生きているのではなく、私たちは自身のウェルビーイングを実現するためにこの現代に生きており、その条件として環境と持続可能性が重要であるに過ぎないと捉え直すことで、ビジョン自体を市民にとっての自分ごとにすることができたのです。

# 市民との共創によるビジョン

このビジョンは市民との共創で作りました。官民協働で小山市の未来を描くため、公募や依頼で選出された市民と市職員からなるおやま市民ビジョン会議を設置するとともに、庁内では関係部署によるプロジェクトチームを立ち上げて市民の意見を多角的視点で捉え、ビジョンに反映しました。

また、地区住民を含めたセミナーやワークショップを繰り返し、各地区及び市全体のビジョンについて「調べる・共有する・学び合う・語り合う」取り組みを行いました。

その結果、市が市民に押し付けたようなビジョンではなく、市民が自分ごととして作り上げたビジョンとなりました。

主な取り組みに関わった市民

—ビジョン本編P202より

風土性調査アンケート

回答者総数 **6,710**人

風土性調査聞き取り調査

協力者総数 **205**人

行政分野別市民アンケート

回答者延べ **13,756**件

セミナー／ワークショップ

参加者総数 **823**人

地区別ビジョン意見交換会

参加者総数 **231**人

## ビジョンに基づく市民が主役のまちづくり

ビジョン策定後、2025年6月に全体としての市民への報告会を行い、8月から年末まで11地区すべてで地区の住民を対象に地区別ビジョン報告会を行いました。行政分野別ビジョンは行政が主導して実現していくことが可能で、現在ビジョンに基づく第9次総合計画を策定しています。しかし、地区別ビジョンはその地区の住民が主体的に関わらなければ実現することは不可能です。地区別報告会の際に行ったグループワークでは、今まで話し合ったこともない市民同士が熱を帯びて地区の将来を語り合う姿が各地区で見られるようになりました。

誰もが自分と地域の関係性を意識していても、今まではそれをうまくつなぐ回路がなかったり機能していなかったのに、このビジョン策定のために重ねた様々な交流と成果物としてのビジョンが地域の人々をつなぎ出していることが確認できました。

この各地に生まれ始めた自分ごととして進めるまちづくりへの熱が冷めることなく広く地域に広がり、市民が主役のビジョン実現に向けた推進体制が構築され、すべての市民のウェルビーイングが実現できることをめざして、今後小山市は全力で取り組んでまいります。